

第24回  
外国人による  
日本語スピーチコンテスト

2015年1月31日（土）午後1:00～4:30

ところ／県民文化センター小ホール

主催／公益財団法人茨城県国際交流協会

共催／茨城県

＊茨城県議会議長賞

ゲーリー（オーストラリア出身）

「グローバル人材になるために必要なこと」

オーストラリアから来ました、ゲーリーと申します。よろしくお願ひします。

みなさんはグローバル化についてご存知かと思いますが、グローバル化はいかがでしょうか。グローバルとは、グローバルとローカルを組み合わせた言葉で、最近流行語になりつつあります。私は、グローバル人材になるためには、なにより自分を知り、つくることが大事だと思います。まず少し、自分自身のグローバル化を目指すようになったいきさつについてご紹介したいと思います。

私は、筑波大学で勉強しています。皆さんは筑波大学のキャッチコピーをご存知でしょうか。筑波大学のキャッチコピーは、**IMAGINE THE FUTURE** です。では、筑波大生として、どのような **FUTURE** が **IMAGINE** できるでしょうか。

この写真をご覧ください。私は、このパーカーを作った人が **IMAGINE** している **FUTURE** を特に面白く思いました。パーカーに何が書いてあるかと言いますと、「予習。復習。再履修。 **IMAGINE THE FUTURE**。」 どうでしょうか。

もちろん、大学側の抱負とは少し異なりますね。筑波大学が目指している **FUTURE** は、国際化でしょう。昨年、筑波大学は文部科学省によって、**SGU** に任命されました。**SGU** とは、**SUPER GLOBAL UNIVERSITY**、スーパーグローバルユニバーシティ、ですね。筑波大学は留学生の人数を増やすことに力を入れ、日本人学生と外国人学生の交流機会の増加を目標にしています。しかし、大学の外国人の人数が増えるからといって、大学は国際化するのでしょうか。

そこでみなさんに一つご協力していただきたいことがあります。サル、バナナ、ウサギの三つの中から2つを関連付けるとしたら、どういうペアを作りますか。手を上げていただきたいです。繰り返しますが、サル、バナナ、ウサギですね。では、サルとウサギを関連付けたかた、手を上げてください。…ありがとうございます。サルとバナナを関連付けたかた、手を上げてください。…ありがとうございます。西洋人にこの質問をすれば、おそらく一人もサルとバナナを関連付けません。その代わりに、サルとウサギを関連付けるのです。機会があればぜひ聞いてみてください。サルとバナナを関連づけた方々はおそらく、サルはバナナを食べるから選んだのだと思います。ではなぜ西洋人はサルとウサギを関連付けるかという、動物だからです。つまり、関係ではなく、分類を見ます。

もう一つ例を挙げますが、英語で告白するとき、何と言うのでしょうか。「**I love you**」ですね。しかし、日本語では「愛している」でいいですか？夏目漱石が英語教師をしていた時、生徒が "**I love you.**" を「我君ヲ愛ス」と訳したところ、「日本人がそんな台詞口にするか。『月が綺麗ですね』」とでも訳しておけ。それで伝わるものだ」と言ったそうです。

東洋の考え方に比べると、西洋の考え方は比較的論理的です。そのため、東洋人は西洋人にとって非論理的だと考えられがちです。しかし、これだけで本当に東洋人は論理性がないと言いきれるでしょうか。私はそうは思いません。「西洋人が論理的で、東洋人が非論理的だ」ということではなく、それぞれ異なる論理性を持っていて、その違いを認識することがポイントだと思います。

グローバル化しようとしている日本人はこれを聞いて、「よーし、英語圏の文化を勉強しよう」と思うかもしれません。しかし、私は、答えを自分の外側や環境に求めるのではなく、個人として、また、日本の文化・伝統を持つ民族として、自らの特殊性を見出して、自分のことを認識することが、大切だと考えます。自分がわかって初めて、他の人に価値を見いだせるのでは、と。「私はどんな考え方、見方をしているのだろうか。」自分のことを理解して、実感することがスタートです。

グローバル化していく社会を作り上げるのはほかならぬ自分自身です。だから、自分を知りましょう。自分を磨きましょう。みなさん、一緒に **FUTURE** を **IMAGINE** しましょう。

ありがとうございました。